

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
実施内容報告書

団体名:大阪府教育委員会

1. 事業名称 地域で活動する識字・日本語教室の支援力強化事業

2. 事業の目的

・府内の識字・日本語教室相互の連携体制を構築する。
 ・学習支援者が、学習者の多様なニーズに応えられるスキルを高め、教室の支援力を強化する。
 (大阪府では、識字運動の中で作られ、活動を続けてきた識字学級にも外国人学習者を受け入れ、ともに学ぶ活動が行われており、日本語教室とともに識字・日本語教室として、学習活動推進のための取り組みを進めている。)

3. 事業内容の概要

地域の日本語教室の学習者への対応力強化のために以下の取り組みを行う。
 ・府内を5つのエリアに分け、システムコーディネーターを各1人配置し、教室どうしの連携強化及び各教室の運営支援や相談への対応を行い、識字・日本語教室相互の協働体制を構築し、各教室の運営力を高める。
 ・初めて日本語を学ぶ外国人への学習支援のための基礎的なスキルを学ぶ「ゼロ初級学習者への学習支援講習会」、外国人学習者の生活に関わる課題解決のために、様々な人や環境に働きかける基礎的なスキルを学ぶ「多文化ソーシャルワーク講座」を開講し、学習支援者の学習者への対応力を高める。
 ・「外国人学習者向け支援者養成研修」を実施して、外国人学習者に対し、教室活動への主体的参加を促し、多様化・複雑化する学習者の課題への教室の対応力をいっそう強化する。

4. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	上杉 孝實	京都大学名誉教授
2	森 実	大阪教育大学 教授
3	有田 典代	【NPO法人】関西国際交流団体協議会 理事
4	石橋 由紀子	【NPO法人】市民活動フォーラムみのお 理事
5	久 和人	大阪府教育庁市町村教育室地域教育振興課首席社会教育主事
6	妻木 靖朗	大阪府教育庁市町村教育室地域教育振興課主任社会教育主事補



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年3月10日 (金) 10:00～12:00	2時間	大阪府庁別館	上杉 孝實 森 実 有田 典代 石橋 由紀子 久 和人 妻木 靖朗	1. 平成28年度実施事業の振り返り、平成28年度事業の評価 2. 平成29年度に向けた方向性の確認

5. 各取組についての報告

<取組1>エリアにおける協働体制構築のための取組み

(1)取組みの目標

エリア内の識字・日本語教室相互の連携体制を構築する。

(2)取組みの内容

府内を5つのエリアに分け、各エリアにシステムコーディネーターを1人配置し、以下のことを行った。

- ①エリア内の教室を訪問し、各教室の活動状況を把握し、教室間の協働関係づくりを進めた。
- ②教室からの教室運営等に関する相談に応じ、助言した。
- ③エリア内の教室が参加する「教室ネットワーク会議(エリアネットワーク会議)」を開催した。
- ④教室の活動を地域に発信した。
- ⑤システムコーディネーター連絡会議を開催した。(5人のシステムコーディネーター、本事業中核メンバー、本事業担当課職員で月1回、連絡会議を開き、情報共有及び課題の整理、課題解決のための協議などを行った。)

* エリア…これまで府内を7つのブロックに分けて、それぞれのブロックの連携体制づくりを進めてきたが、本事業では7ブロックの一部を統合し、5つのエリアで実施した。

(3)参加対象者

システムコーディネーター、識字・日本語教室学習支援者、学習者

(4)実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	教室・行政担当者数	取組テーマ	内容	指導者名
1	平成29年1月10日(月) 14:00～16:00	2	茨木市福祉文化会館 (オークシアター)	18	三島エリア ネットワーク会議	市町村国際セクション、教委、国際交流協会や教室コーディネーターに集まってもらい、各教師の課題共有と情報交換を図る。	三島エリア システムコーディネーター 島貫清司
2	平成29年1月28日(土) 16:00～17:00	1	まつばらテラス(輝)2階	9	中・南河内エリア ネットワーク会議	市町村国際セクション、教委、国際交流協会や教室コーディネーターに集まってもらい、各教師の課題共有と情報交換を図る。	中・南河内エリア システムコーディネーター 内海京子
3	平成29年2月7日(火) 14:00～16:00	2	門真市立門真市民プラザ	17	北河内エリア ネットワーク会議	市町村国際セクション、教委、国際交流協会や教室コーディネーターに集まってもらい、各教師の課題共有と情報交換を図る。	北河内エリア システムコーディネーター 松藤昌代
4	平成29年2月21日(火) 14:00～15:00	1	堺市立人権文化センター	9	泉州エリア ネットワーク会議	市町村国際セクション、教委、国際交流協会や教室コーディネーターに集まってもらい、各教師の課題共有と情報交換を図る。	泉州エリア システムコーディネーター 岩田光弘
5	平成29年2月26日(日) 11:00～13:00	2	箕面市箕面文化・交流センター	8	豊能エリア ネットワーク会議	市町村国際セクション、教委、国際交流協会や教室コーディネーターに集まってもらい、各教師の課題共有と情報交換を図る。	豊能エリア システムコーディネーター 河合大輔
6	平成28年9月29日(木) 10:00～12:00	2	大阪府公館	10	システムコーディネーター、識字・日本語コーディネーター合同会議	教室訪問の情報共有、及び取組3、取組4の検討(大阪府識字・日本語学習コーディネーターとの合同会議)※取組3は多文化ソーシャルワーク講座、取組4は外国人学習支援者養成講座	(参加者) 河合大輔、島貫清司、松藤昌代、内海京子、岩田光弘、安野勝美、田村幸子、久保房子、柴田亨、丸山敏夫
7	平成28年11月7日(木) 10:00～12:00	2	大阪府庁新別館北館	5	システムコーディネーター会議	エリアネットワーク会議の企画について、取組3、取組4の広報について	(参加者) 河合大輔、島貫清司、松藤昌代、内海京子、岩田光弘
8	平成29年2月8日(水) 10:00～12:00	2	府教育庁地域教育振興課内会議スペース	6	システムコーディネーター会議	取組5識字・日本語学習シンポジウムのパネルトークの内容と発言について	(参加者) 河合大輔、島貫清司、松藤昌代、内海京子、岩田光弘、安野勝美
9	平成28年7月11日～ 平成29年1月22日	155	府内識字・日本語教室		教室訪問	エリア内の教室を5エリアで78教室訪問、各教室の活動状況を把握教室間の協働関係づくりを構築	(実行者) 河合大輔(豊能エリア) 島貫清司(三島エリア) 松藤昌代(北河内エリア) 内海京子(中河内エリア) 岩田光弘(泉州エリア)
10	平成28年7月11日～ 平成29年3月8日	298	府内識字・日本語教室、市町村庁舎	各市町村行政担当者および教室支援者	コーディネーター業務	エリアの教室や学習者の相談、教材の指導、学習希望者への教室紹介や市町村を越えた各種調整業務	(実行者) 河合大輔(豊能エリア) 島貫清司(三島エリア) 松藤昌代(北河内エリア) 内海京子(中河内エリア) 岩田光弘(泉州エリア)

(5) 特徴的な活動風景

○取組事例①

【平成29年2月7日(火) 北河内エリアネットワーク会議】

北河内エリアでは、きめ細かい教室訪問が行われ、その結果、行政担当者や教室支援者のつながりが広がり、日本語教室運営のヒントを「四條畷市にほんご教室」の運営事例から学ぶとともにエリア内の識字・日本語教室におけるさまざまな課題について意見交換するエリアネットワーク会議も10団体、17名の参加につながった。また、今回改めて教室の課題を中心に、ワークショップ的な手法を使って話し合いを進めたところ、各教室の取組みについての理解が深まった。



○取組事例②

【平成29年1月10日(火) 三島エリアネットワーク会議】

三島エリアネットワーク会議ではシステム・コーディネーターが教室訪問の報告を行うとともに、参加者(行政担当者と12教室の支援者)が3つのグループに分かれて、識字学級・日本語教室各々の課題や取組みについての交流を行うことにより、行政担当者や教室支援者の連携が進むきっかけとなった。



(6) 目標の達成状況・成果

・府内78教室の訪問やエリアネットワーク会議を開催することで、府内5つのエリアにおける各教室どうし、教室と行政その他の組織との連携が進んだ。また、システムコーディネーター連絡会議や識字・日本語学習シンポジウムなどで、5つのエリア間の情報共有も行き、府全体としての連携と学習支援体制の整備が促進された。

・とりわけ、北河内エリアでは、エリアネットワーク会議の中で、学習支援者不足が深刻であることが共通の課題であることが分かり、各教室からのリクエストで「市町村を越えた取組み事業」(大阪府教育庁事業)を活用して、ボランティア基礎講座を開催することにつながった。

(7) 今後の改善点について

・教室訪問において、使用教材を確認したところ、ほぼ90%の教室で「みんなのにほんご」が使われており、文化庁「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集」については、活用度が非常に低いことが明らかとなり、教材に関わる情報が少ない状態となっている。今後、「おおさか識字・日本語センター」の教材紹介サイトの充実、ならびに大阪府教育庁ウェブサイトでの教材紹介などを充実させていきたい。

・効果の大きいエリアネットワーク会議であるが、今年度は文化庁との契約から再委託先との契約までに時間がかかり、各エリアで1度しか行えなかった。次年度以降は最低でも2回の実施を促し、大阪府内でこれまで行ってきたブロック会議やブロック交流会等を活用して、年間を通して、4～5回は学習支援者が集まれる機会を作っていきたい。

＜取組2＞「ゼロ初級学習者」への学習支援講習会の開催（日本語初心学習者支援講習会）

(1)取組みの目標

初めて日本語を学ぶ学習者への学習支援方法の基礎を身につける。

(2)取組みの内容

日本語教育の専門家等を講師として、識字・日本語教室の学習支援者を対象に初めて日本語を学ぶ学習者が安心して学べる環境を整えるとした講座を実施した。
 なお、識字・日本語学習コーディネーター会議で「ゼロ初級」という文言が外国人を等級分けしているように聞こえるため、人権上の配慮が必要ではないか、という意見があり、募集については「日本語初心学習者支援講習会」という名称に変更した。

(3)参加対象者

識字・日本語教室の学習支援者

(4)実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名
1	平成28年8月23日（火） 10:00～12:00	2	吹田市立男女共同参画センター	19	初心学習者の思いを知る。	【体験発表】「初めて日本語に触れる不安です」 【講義】「大阪府における外国人在留者の現状と今後」	発表者 西成よみかき教室 学習者（お二人） 講師 府教育庁地域教育振興課 妻木 靖朗
2	平成28年8月30日（火） 10:00～12:00	2	吹田市立男女共同参画センター	19	初心学習者が直面する課題と教材について知る。	【講義】「日本語初心学習者が直面する課題と解決策」 【講義】「文化庁事業における指導案と教材」	講師 おおさかこども多文化センター 副理事長 安田 乙世 講師 府教育庁地域教育振興課 妻木 靖朗
3	平成28年9月6日（火） 10:00～12:00	2	吹田市立男女共同参画センター	20	実際に初心学習者を支援している教室から話を聞くとともに、独自教材の作成方法を学ぶ。	【対談・ビデオ放映】「日本語初心学習者対応のポイント」ーにほんご・ななば（よる）の取組みからー 【講義】日本語初心学習者向け教材について	講師 多文化共生社会を考える会 代表 田中 洋子 講師 大阪日本語ボランティアネットワーク 運営委員 久保 房子 講師 公益財団法人京都府国際センター 日本語教師 松藤 昌代
4	平成28年9月13日（火） 9:30～12:00	2.5	大阪市立淀川区民センター	18	初心学習者を指導するための実践手法①	【講 演】実践手法①「はじめまして」最初の活動の進め方	講師 大阪YWCA日本語教師会 日本語講師 伊東 和子
5	平成28年9月27日（火） 9:30～12:00	2.5	吹田市立男女共同参画センター	21	初心学習者を指導するための実践手法②	【講 演】実践手法②「対話中心の活動の進め方」	講師 大阪YWCA日本語教師会 日本語講師 辻村 文子
6	平成28年10月4日（火） 9:30～12:00	2.5	吹田市立男女共同参画センター	17	初心学習者を指導するための実践手法③	【講 演】実践手法③「発音と文字の指導」「みんなのにほんご」を使った活動	講師 大阪YWCA日本語教師会 日本語講師 伊東 和子

(5) 特徴的な活動風景

○取組事例①

【第1回 平成28年8月23日(火)】

西成よみかき教室で学ぶAさん、Bさん姉妹は、平成9年、残留日本人の家族として日本に「帰国」したが、全く日本語はわからない状況であった。その時日本語を教えてくれた人々がボランティアだったことに驚き、自分も人の役に立とうと、現在福祉関連のボランティアをしている。

重要なポイントとして、「日本語を学ぶ学校は多くできてきたけれど、言葉というのは、しゃべるからうまくるのであって、話し相手がいない状態ではなかなかうまくならない。だからこそ、よみかき教室や日本語教室では、たくさんおしゃべりできるような場にしてほしい」と学習者としての要望があった。なお、お二人は現在も西成よみかき教室に通いつつ、日本語学習(とりわけ読み書き)を行っている。

日本語教室で支援ボランティアをされる人々は、どうしてもカリキュラムや教材に対する不安をお持ちだが、「教えてもらう」より「話し相手になってもらう」ことが日本語は上達する、ということを学習者の言葉で直接聞いたことは大きく、第2回以降の講習の導入として最適な内容となった。



○取組事例②

【第5回 平成28年9月27日(火)】

大阪YWCA日本語教師会の辻村文子さんによる講義は、『にほんごこれだけ!』(ココ出版)のテキストを活用し、日本に住む外国人が最も困ることは何か?という観点から話を進められ、実物や実際のものを使ったり、パネルや写真を活用した伝え方を講義された。その後受講者どうし、ロールプレイによって実際に日本語を指導し、「やさしいにほんご」を体験する内容となった。

大阪府内の日本語教室でも、日本語能力検定をめざすようなカリキュラムを作成する教室が多い中、「生活者としての外国人」という観点からの内容は、事業の目的に沿うもので参加者にとって大変参考になった。



(6) 目標の達成状況・成果

受講アンケートから

- ・受講した講習はあなたの期待やニーズに応えていると思いますか。(4.51/5段階)
- ・講習の内容は、理解できたと思いますか。(4.56/5段階)
- ・この講習で得たことを今後の活動に生かすことができますと思いますか。(4.51/5段階)
- ・内容は充実していましたか?(4.55/5段階)

以上の通り、非常に高い評価であった。

また、初めて日本語を学ぶ学習者に対応できる教室が増えた。また、エリア内の市町村行政担当者や教室と情報共有することによって、初めて日本語を学ぶ学習者に対応できない識字・日本語教室を対応可能な教室につなぐことができる環境づくりにつながった。

さらにこの講習会に参加していただいた受講者を登録し、識字・日本語学習関連の情報を提供することでネットワークも構築できた。

(7) 今後の改善点について

・今回、内容については高い評価をいただいたが、事業の企画が遅れてしまい、周知期間が3週間程度となってしまった。このため、参加者がより多く集まるように次年度以降は、最低でも6週間前には広報を行えるように対応していきたい。

・内容については、受講者のネットワークを広げるという観点から、1回目にアイスブレイクワークショップを入れるとともに、最終日に振り返りのワークを入れるなど交流する時間を設けていきたい。

＜取組3＞多文化ソーシャルワーク講座の開催（「社会とつなぐ日本語教室運営講座」）

（1）取組みの目標

学習者からの生活に関わる相談等への対応力を高める。

（2）取組みの内容

在留外国人を支援するソーシャルワーカー等を講師として、識字・日本語教室の学習支援者を対象に、外国人を支援するソーシャルワークの手法の基礎を学ぶ講座を実施した。
 識字・日本語学習コーディネーターおよびシステム・コーディネーター合同会議において、愛知県における「多文化ソーシャルワーカー」の制度について議論となり、大阪府として、新たな「多文化ソーシャルワーカー」を配置する施策的余裕はないため、現在地域福祉部が配置しているコミュニティ・ソーシャルワーカー（CSW）との連携を図る形で講座を設計した。また、新たな資格を作る者だと勘違いされないために、講座名「社会とつなぐ日本語教室運営講座」と変更した。

（3）参加対象者

識字・日本語教室の学習支援者

（4）実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名
1	平成28年 12月7日（水） 14:00～16:00	2	大阪府教育 センター	15	これまでの 識字教室 が担ってきた 役割を知る。	【発表】日本語学習者を受け止めた識字教室 ー これまでの府内識字学級の取組みから ー 【ワークショップ】自分が直面した外国人学習者の相談事例	下瓦屋識字教室 代表 山中 明
2	平成28年12月14日（水） 14:00～16:00	2	大阪府教育 センター	21	外国人の 具体的な 相談内容 について知 ると思に、 対応策に ついて認識 を深める。	【講 義】大阪府における外国人の相談内容と対応 【講 義】コミュニティソーシャルワーカーの対応事例について	（公財）国際交流財団 相談員 北田加代子 八尾市 人権安中・高美地域協議会 CSW 笠原 征郎
3	平成28年12月21日（水） 14:00～16:00	2	大阪府教育 センター	20	地域に根 ざした生活 者としての 外国人の 支援につ いて学ぶ。	【講 演】外国にルーツを持つ人々の災害時の「困り感」 ー大規模災害時を中心にー	NPO法人 多文化共生マネージャー全国協議会 理事 土井 佳彦

(5) 特徴的な活動風景

○取組事例①

【第2回 平成28年12月14日(水)】

- ・(公財)大阪府国際交流財団相談員北田加代子さんから、通訳を入れた相談にトリオフォンの活用や日本語教室でも質問がある「在留資格」「結婚と国籍」、運転免許に関することや就業に関する質問などについて紹介があり、今後の活動に活かせる内容となった。
- ・八尾市人権安中・高美地域協議会のCSW(コミュニティソーシャルワーカー)の笠原さんからは、具体的に市役所の部局に関わったり、市町村域を越えた相談の時のCSWと役所の連携について、わかりやすく具体例が提示され、参加者が今後活動をするうえでたいへん参考となる研修になった。



○取組事例②

【第3回 平成28年12月21日(水)】

- ・NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会理事 土井 佳彦さんは、東日本大震災や熊本地震で、情報弱者となりうる外国人の人々への情報提供の組織作りに携った経験から、普段から地域に住む生活者としての外国人を日本語教室や大阪府内に設置されているコミュニティ・ソーシャルワーカー(CSW)が自立のための支援をしていく重要性についての話があった。
- ・後半は土井さんがファシリテーターとして、災害に備えた日本語教室の取組みについて交流が持たれた。特にとんだばやし国際交流協会等からは、安倍野防災センターの見学を通して、防災意識を高めるとともに、災害時に必要な日本語学習について具体的な報告があり、参加者にとって今後の活動に活かせる内容となった。



(6) 目標の達成状況・成果

- ・全体としての評価は高く、(1回目 4.44、2回目 4.39、3回目 4.85)とりわけ3回目の評価は4.85(5.0満点)高いものになった。(全体評価は4.57)
- ・これまで、地域における教育拠点として活動していた識字教室が、生活に関わる悩みの相談も受けていたこと、行政との密接な連携をもとに、学習者の生活上の不安を取り除き、生活する基盤を安定させることが学習が継続してきた歴史を学んだ。
- ・第1回、第3回の研修後半に事例交流を導入し、受講者の「困り感」や課題をお互いに共有できた。その上で、社会の構成員としての外国人の存在を認知するとともに、社会の関連機関とうまく連携することで課題解決が可能になることを実感できる研修となった。
- ・学習支援者や教室コーディネーターが外国人学習者から相談される生活に関わる課題について、行政や相談機関につなぐ手法や情報を知ることができた。そのことにより、学習支援者等が行政・相談機関とつながるきっかけとなった。
- ・学習支援者が学習者が抱える様々な課題について、行政や相談機関とつなぐ手法や情報を知ったことにより、学習者が安心して学習できる環境づくりにつながった。

(7) 今後の改善点について

- ・内容についての評価は高かったが、周知期間が3週間程度になってしまい、想定した参加者を集めることができなかった。次年度は参加者がより多くなるよう、周知期間が6週間程度とれるよう取り組みたい。

<取組4>外国人学習者のための支援者養成講座

(1)取組みの目標

識字・日本語教室で学んだ外国人学習者が、自身の経験や母語を活かし、学習支援者として活動していけるようにする。

(2)取組みの内容

識字・日本語教室で学んだ学習者のうち、今後学習支援者としての活動を行ってもよいと考えている人を対象として、学習支援者として必要な知識やスキルを学ぶための講座を実施した。

(3)参加対象者

識字・日本語教室で学んだ学習者のうち、今後学習支援者としての活動を行ってもよいと考えている人。

(4)実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成29年1月14日(土) 14:00～16:00	2	大阪市立難波生涯学習センター	10	大阪府における識字・日本語教育の現状	【講義】地域に根ざした識字・日本語教室をめざして よみかき茶屋の取組みを中心に	京都女子大学 教授 岩槻 知也	
2	平成29年1月21日(土) 14:00～16:00	2	大阪市立難波生涯学習センター	10	大阪府における識字・日本語教室の現状と課題	【講義】府内の識字・日本語教室 【ワーク】みんなで体験を話そう	大阪府教育庁 地域教育振興課 妻木 靖朗	
3	平成29年1月28日(土) 14:00～16:00	2	大阪市立難波生涯学習センター	10	実際に支援者となったもと学習者の体験談を聞く	【パネルディスカッション】 できること てつだえること	かいづか国際交流協会 会長 安野勝美 堺市立殿馬場中学校 夜間学級講師 大滝 沙織 府立長吉高等学校 教諭 リータイワー	

(5) 特徴的な活動風景

○取組事例①

【第1回 平成29年1月14日(土)】

京都女子大学の岩槻和也教授を講師として、「大阪府における識字・日本語教育の現状」というテーマで講演があった。

岩槻教授は、社会教育とりわけ成人教育が専門で、大学時代から大阪市内で活動している「よみかき茶屋」で識字・日本語学習の支援者としての活動や平成22年4月～平成23年3月に自らが学習者として地域の英語教室(ESOL: English for Speakers of Other Language)での体験を交えて、日本語教室で支援する内容は、単に「言葉を教える」だけでなく、その地域の文化に対するフォローと、自らの母文化に対するリスペクトが伝わる支援が必要との話があり、参加者にとって外国人支援者の必要性に対する理解が深まる講座となった。



○取組事例②

【第3回 平成29年1月28日(土)】

中国の高校を卒業して来日した後、日本語を習得し、堺市立殿馬場中学校や府立高等学校等で中国語や日本語の指導をされている大滝沙織さんと、14歳の時にベトナム難民の家族として来日、「トッカビ子ども会」と学校で日本語を学んだ後、支援者としてベトナムルーツの子どもを支えたリータイワーさん(府立長吉高等学校 教諭)がパネラーとなって、学習者が支援者となった体験を話された。

大滝さんからは、どんどん日本語が上達する子どもと、母語でしか話せない親とのコミュニケーションが取れなくなり、子どもは両親を恥ずかしく思うことがある。親の日本語能力育成の大切さと、子どもの母語教育の大切さについて語られるとともに、「お弁当」をはじめとする日本独特の文化について、きめ細かなフォローが必要なことを語られた。リータイワーさんからは、ベトナムと日本では、高校進学や後期中等教育に対する意識が違うため、「トッカビ子ども会」の子どもの家を訪問し、親を高校見学に連れ出した体験などが語られた。日本文化と自分の母文化を知っている人が傍らにいたことが、日本語学習ではどれだけ重要か、を訴える意義深い研修となった。



(6) 目標の達成状況・成果

- ・外国人の参加は2名であった。実際に外国人でありながら日本語学習の支援を行っている方から話が聞けたのは大きく、日本人の参加者で教室のコーディネーターからは、次年度に向けて、同様の研修をしてほしい、という意見が多く出された。
- ・参加者が10名と少数だったが、アンケートの結果は5段階で4.9と高かった。
- ・本講座で学んだ人が、日本で生活する外国人としての経験や知識を識字・日本語教室で発揮することで、教室の支援力をいっそう高めることができた。講座の内容等をエリア内の行政担当者やシステムコーディネーターを通じて各教室に情報共有されることにより三者の連携が進むきっかけとなった。

(7) 今後の改善点について

- ・早期の広報活動、さらに個別の識字・日本語教室で実際に活動する人や活動できる可能性のある人を見出すことが重要で、「取組1」のシステム・コーディネーターが人材発掘を念頭に置いて、教室の連携を取っていく必要がある。
- ・大阪府内において、日本語教室で日本語を学ぶ外国人の多くが、技能実習生であることから、教室側として、支援者となる人材が見つからないという現状がある。また、ボランティアによって担われる日本語教室が多い中、生活のために働かねばならない外国人が支援者となるのは非常に難しい。このため、個別に人材を発掘する必要がある。
- ・府立高等学校全校にも案内を行ったが、大学に対して案内ができなかったため、次年度は大学にも案内し、大学とも連携できるように進めていきたい。

<取組5>識字・日本語学習シンポジウム

(1)取組みの目標

本事業の進捗状況を共有し、成果と課題を整理する。
シンポジウムの開催及びその成果を府民に発信し、識字・日本語学習活動の認知を深める。

(2)取組みの内容

- ・5人のシステムコーディネーターが、本事業に係る取組みを通じて把握した各エリアの状況を報告するとともに、課題を提起した。
- ・参加者全員で、提起された課題について、その原因と課題解決の方策を協議した。
- ・他の都道府県で実施されている体制整備の実践事例を紹介した。

(3)参加対象者

識字・日本語教室関係者、行政担当者等。

(4)実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成29年2月27日(月)	45分	マイドーム大阪第3会議室	58	にほんご・なんば(よる)の実践報告	取組7の「にほんご・なんば(よる)」による日本語学習の実践について報告	田村幸子	
2	平成29年2月27日(月)	75分	マイドーム大阪第3会議室	58	「エリアにおける協働体制の構築」パネルトーク	取組1の「エリアにおける共同体背の構築」について、再委託先のシステム・コーディネーターからの報告	河合 大輔 島貴 清司 内海 京子 岩田 光弘	安野 勝美
3	平成29年2月27日(月)	60分	マイドーム大阪第3会議室	58	大阪府における識字・日本語教育の現状と課題	大阪識字・日本語協議会委員長である京都大学名誉教授の上杉孝實先生に当事業の総括と、教育機会確保法成立後の成人教育について、全国状況を踏まえて語っていただいた。	京都大学名誉教授 上杉 孝實	

(5) 特徴的な活動風景

○取組事例

取組7を実施したにほんご・なんば(よる)から、「学習者と支援者がお互い教え合う関係性を早期に構築していくこと」「何でも相談できる雰囲気作り」「大学生や教室で学んだ経験のある外国にルーツのある人を支援者に養成していくことの重要性」についての報告があり、参加者が教室運営で必要なことに関する理解が深まった。

また、取組1に関わった5人のシステムコーディネーターから、下記の4点について各エリアの状況を報告した後に、参加者全員で課題解決の方策等について協議した。

そのことによりエリアを越えたつながりが広がるきっかけとなった。

記

- ①各市町村やエリアでの識字・日本語学習の広報体制はどうなっているか？
- ②各エリアでの支援者の確保について
- ③教室訪問を行って、良かったと思える点
- ④この事業が始まってエリア(ブロック)としての変化や良かった点



(6) 目標の達成状況・成果

・参加者に対してアンケートを実施した。アンケートでは、「日本語・なんば(よる)」の報告は4.3、パネルトークは4.3、講演は4.2の評価であり、おおむね好評であった。(総合4.3)

・各エリアの教室の成果や課題について、情報共有や協議することにより、教室支援者がより多くの日本語習得を必要とする学習者のニーズに応えることができるきっかけとなった。

(7) 今後の改善点について

・今年度、初年度ということもあって取組1の終了が遅れたため、シンポジウムの開催日程が確定できず、周知期間が短くなった。次年度はより多くの人に参加してもらえるよう、全取組みを少しずつ早く計画的に進め、周知期間を6週間程度確保できるよう進めたい。

＜取組6＞よみかきこうりゅうかい(だい27かい よみかきこうりゅうかい2016)

(1)取組みの目標

府内の識字・日本語教室の学習者、学習支援者がお互いに情報交換や意見交流を行うことにより、日常の活動への意欲や課題を解決していくヒントを得る機会とする。

(2)取組みの内容

大阪府内の識字・日本語教室の学習者、学習支援者が一堂に会する交流会を開催。
外国人をはじめとした日本語学習に関わっている人が集まり、日常の活動についての成果や課題などの情報交換や意見交流を行う分科会を実施した。

(3)参加対象者

府内の識字・日本語教室学習者、学習支援者、市町村担当者

(4)実施内容

コーナー			実施場所	参加者数	時間	内容	指導者名	補助者名
全体会			大ホール	430	平成28年 10月16日 (日) 10:30～12:00	教室紹介、生江識字教室、岸城中学校の発表	壺井宏・藤本敏秀 森 実	岩槻 知也 下元日登美
分科会	A	なかまづくりのひろば	第10研修室	8	13:00～15:00	アイスブレーキングワークショップ	荒木聖加・三輪真嗣 (府立高校)	漆原大造(枚方)
	B1	おしゃべりのひろば1	第7研修室	35		学習者の体験発表(3名)・交流	安野勝美(長栄中) 相坂英伸(布施中)	内藤和夫(大東)
	B2	おしゃべりのひろば2	第8研修室	37		学習者の体験発表(2名)・交流	鶴巻弥須夫(豊中四中) 中野武(豊中識字連)	井上淳子(枚方)
	C1	作文のひろば1	第11研修室	20		学習者の作文発表(5名)・交流	山口治美(殿馬場中) 田中いくみ(文の里中)	園部一輝(忠岡町)
	C2	作文のひろば2	第12研修室	17		学習者の作文発表(5名)・交流	西川次郎(八尾中) 山北 守(よみかき茶屋)	北野正剛(八尾)
	C3	作文のひろば3	第13研修室	15		学習者の作文発表(5名)・交流	石井謙治(守口さつき) 松本・上賀(総持寺識字)	進藤和也(枚方)
	D	異文化とふれあうひろば	第2研修室	22		外国人学習者の体験交流	島貴 清司(クスクス)	川口晶子(交野)
	E	俳句のひろば	第6研修室	16		俳句を作り、交流する。	岡田 耕治 (大教大)	岡田一(阪南)
	F	世界の歌と踊りのひろば	大ホール	153		中国・ベトナム・韓国等の民族舞踊や歌を交流する。	吉松光代(天満中) 宮本和子(東生野中)	北川 和弥(貝塚)
	G	ものづくりのひろば	第3研修室	46		折り紙を使った文化交流。	深町早智子 藤田千津子 (堺識字・日本語つどい)	川添毅(堺)
	H	韓国・朝鮮語でおしゃべりするひろば	第5研修室	2		韓国・朝鮮語で話そう。	姜聖律(府立桃谷高校)	西垣百花(和泉)
	I	中国語でおしゃべりするひろば	第9研修室	24		母語である中国語で話そう。	下岡純子(高砂日本語)	高野 如代(府)

網掛けの分科会が、当事業に該当します。
分科会合計が参加者総数に合わないのは、途中で分科会をうつった人がいるためです。

(5) 特徴的な活動風景

○取組事例

分科会D(異文化とふれあう広場)

取組1の豊能エリアシステム・コーディネーターから「日本に来て驚いたこと、自分の母国と大きく違って戸惑ったこと」を絵に描いてお互いに交流した。日頃なかなか自分の生活や思いを語る場がない人々にとってとても新鮮な内容となったようで、多文化の人々が、互いを尊重しあった、アサーショナルな交流を行うことができ、参加者が今後の活動への意欲や誇りを高めていくことにつながった。



(6) 目標の達成状況・成果

分科会では外国人だけでなく、日本語学習に関わる人たちが一緒に活動することで教室を越えたつながりをつくることができた。

(7) 今後の改善点について

参加者からは分科会の内容について、満足したとの声が多かったがより多くの方が交流できるよう、次年度に向けて実施内容を精査する必要がある。

＜取組7＞地域日本語教室「にほんご・なんば(よる)」による日本語教育活動

(1)取組みの目標

学習者と学習支援者が対等な立場でお互いの力を発揮し、持続可能な形で活気ある教室活動になるよう、先進的な取り組みを実施し、府内の他の識字・日本語教室に発信する。

(2)取組みの内容

- 多様な学習者が集まるターミナル型教室の特徴を活かして、以下の取組みを行った。
1. 次世代の学習支援者を拡大するために、大学等で教室活動の広報・案内を行った。
 2. 外国人学習者が主体となる取組みを実施した。
外国人住民への教室活動の案内等
 3. 教室運営委員会を設置し、学齢期外国人学習者への日本語教室での支援のあり方を検討した。

(3)参加対象者

大阪市内在住の日本語学習の学習者および支援者。

(4)実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年7月12日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	40	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習、全体学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか15人
2	平成28年7月19日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	43	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか17人
3	平成28年7月26日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	33	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習、全体学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか13人
4	平成28年8月2日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	26	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか12人
5	平成28年8月23日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	28	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか17人
6	平成28年8月30日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	20	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習、全体学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか14人
7	平成28年9月6日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	29	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか19人
8	平成28年9月13日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	32	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか16人
9	平成28年9月20日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	26	日本語学習	台風で暴風警報が発令されたため、教室としては休みの連絡をした。学習センター内のロビー及びビル内で連絡が届かなかった学習者に対する個別学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか5人
10	平成28年9月27日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	3	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村幸子 ほか14人
11	平成28年10月4日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	22	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか17人
12	平成28年10月11日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	32	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習、全体学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか12人
13	平成28年10月18日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	29	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか15人
14	平成28年10月25日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	30	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習、全体学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか9人
15	平成28年11月1日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	34	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 防災訓練、ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか14人
16	平成28年11月8日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	31	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか12人
17	平成28年11月15日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	32	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか14人
18	平成28年11月22日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	29	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか15人
19	平成28年11月29日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	0	日本語学習	ボランティア研修	安田乙世	田村幸子ほか14人
20	平成28年12月6日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	19	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか15人
21	平成28年12月13日(火) 18:30～20:30	2	難波市民学習センター	22	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか3人

22	平成28年12月20日(火) 18:30~20:30	2	難波市民学習セ ンター	27	日本語学習	全体学習、ゲーム、歌、楽器演奏、学習発表、 交流	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか15人
23	平成28年1月10日(火) 18:30~20:30	2	難波市民学習セ ンター	15	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習 書初め、茶道、文字学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか14人
24	平成28年1月17日(火) 18:30~20:30	2	難波市民学習セ ンター	31	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか13人
25	平成28年1月24日(火) 18:30~20:30	2	難波市民学習セ ンター	25	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか13人
26	平成28年1月31日(火) 18:30~20:30	2	難波市民学習セ ンター	32	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習、節分について学習発 表、全体学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか10人
27	平成28年2月7日(火) 18:30~20:30	2	難波市民学習セ ンター	30	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか12人
28	平成28年2月14日(火) 18:30~20:30	2	難波市民学習セ ンター	26	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか17人
29	平成28年2月21日(火) 18:30~20:30	2	難波市民学習セ ンター	33	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか15人
30	平成28年2月28日(火) 18:30~20:30	2	難波市民学習セ ンター	21	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習、全体学習(節分)	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか13人
31	平成28年3月7日(火) 18:30~20:30	2	難波市民学習セ ンター	28	日本語学習	教室見学者、新たな登録者対応 ペアまたはグループ学習、全体学習	田村幸子 久保房子 岸治代	田村規美子 ほか22人

(5) 特徴的な活動風景

○取組事例①

【第15回 平成28年11月1日】

センター職員と事前に協議、打ち合わせをして、防災訓練を行った。

学習時間の前半は、地域の消防署職員による災害時の注意や標識の見方などの話を聴き、防災の知識を深める学習をした。学齢期の学習者にもわかりやすい内容とした。

その後、実際に施設内の避難経路を全員で確認する。普段、使わないドアなどをどのようにあけて避難するか、一人一人が実際にドアの開け方を学び、体験した。標識の見方も実際に設置されているところで質疑応答して、全員で学ぶことができた。

後半は、通常のペアやグループでの学習を行う。学習者に、防災訓練でわからなかったことはないか、理解できているかなどを確認した。会話を楽しむ人、文字学習をする人、それぞれの学習したい内容を楽しく学習し、全員で教室の片づけをして終了した。



○取組事例②

【第23回 平成29年1月10日】

・日本文化を体験することを目的として、書道と茶道を順番に体験した。茶道も、書道も、支援者の中に専門家がいたので、中心になって準備をしてもらった。

学習者は、初めてお茶をたてる経験をした人が多かったが、みんな丁寧に教えてもらい、作法にならって自分でたてたお茶を飲んだ。普段の会話とは違った言葉にも挑戦した。発音など難しい人もいたが、なごやかな雰囲気の中で学ぶことができた。

書道は、簡単に書けるように墨汁を使って、いくつかの手本の中から、自分の好きな文字を書いた。みんな日本の漢字にはとても興味があり、筆の使い方も上手だった。ベトナムの学習者は、ベトナムで使われていたという難しい漢字を書いて日本人を驚かせた。それぞれ、書くだけでなく、漢字の意味についても学んだ。自分の書いたものを嬉しそうに持ち帰る様子が印象的だった。

・また、新年の抱負を書いて、みんなで発表しあい、他の人の書いたものを見て、交流を深めた。

普段、あまり話す時間のない人同士も、会話ができて良かった。

最後に、全員で記念撮影をした。みんな、自分のスマホを渡して、撮ってほしいというリクエストするので、何枚も撮影し、時間はかかったが、笑顔で新年最初の学習を終えた。



(6) 目標の達成状況・成果

・教室の立ち上げからみんなで話し合っ決めて教室の理念「学習者とボランティアが“いっしょに考え”、“いっしょに学び”、“いっしょにつくっていく”教室」を見学の段階から理解してもらい、教室内で共有しており、毎回の教室準備や後片付けを全員で行うことや、学習においてもペアやグループ学習だけでなく教室全体で学ぶ時間を工夫して実施した。それらの取り組みの中で自由な発想で自主的な提案してくれる学習者や支援者が増え、なごやかで活気ある活動となった。

・年度末に開催された大阪府内の市町村担当職員や学習支援者などが参加したシンポジウムで、教室の取り組みや成果について発表した。また多様な学習者の具体事例や、支援者にとっても多くのことを学ぶ場であることを感じる具体事例を紹介した。終了後に、参加者から「共通の課題や実情があり、大変参考になった、是非教室に伝えていきたい」との声があった。

・今年度実施した学習者に対するアンケートでは、84%の人が「この教室で日本語を学んで、前より日本語が上手になった」と回答し、特に「一人で買い物ができる」「一人でバスや電車に乗れる」という回答が多かった。また、「教室で学ぶようになって友達や相談相手が増えた」と答えた人が68%、「教室の学習内容に満足している」との回答が95%だった。

(7) 今後の改善点について

コーディネーターの役割を担う人材を見つけ、育成する必要がある。経験は浅くても、教室全体の運営に意識をもって活動する姿勢の人を少しずつ増やすことはできているので、今後は役割分担を具体的に話し合っコーディネーターを育成していきたい。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

・府内の識字・日本語教室相互の連携体制を構築する。
・学習支援者が、学習者の多様なニーズに応えられるスキルを高めることにより、教室の支援力を強化する。
(大阪府では、識字運動の中で生まれ、活動を続けてきた識字学級においても外国人学習者を受け入れ、ともに学ぶ活動が行われており、日本語教室とともに識字・日本語教室として、学習活動推進のための取り組みを進めている。)

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・府内78教室の訪問やエリアネットワーク会議を開催することで、府内5つのエリアにおける各教室どうし、教室と行政その他の組織との連携が進んだ。また、システムコーディネーター連絡会議や識字・日本語学習シンポジウムなどで、5つのエリア間の情報共有も行い、府全体としての連携と学習支援体制の整備が促進された。
・また、システムコーディネーター連絡会議や識字・日本語シンポジウムなどで5つのエリアの課題等の情報共有や協議をすることにより、府全体としての連携体制や学習支援体制の整備が促進された。
・「日本語初心学習支援講習会」「社会とつなぐ日本語教室運営講座」等の取り組みを実施することにより、教室支援者等が様々な課題を抱える学習者からの質問に対して話を聞き、専門機関につなぐなどの対応スキルを高めることにつながった。

(3) 地域との関係者との連携による効果、成果 等

「エリアネットワーク会議」「識字・日本語シンポジウム」「よみかきこうりゅうかい」などの取り組みを通じて、府内のそれぞれの教室やエリアでの課題等を共有し、一緒に考える機会を持てたことにより、教室支援者、行政担当者、関係団体等の連携が促進された。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・各市町村教育委員会および国際交流所管部課に対して、行事の実施を連絡するとともに、行事のチラシ配布を依頼した。
・大阪府ウェブサイト、実施講習について広報するとともに、マスメディアに対して情報提供した。
・各市町村国際交流協会、あるいは講習受講者に対してメール発出した。

(6) 改善点、今後の課題について

今年度、府内識字・日本語教室の相互のつながりをつくる基盤ができた。次年度はさらに連携が進むよう、システムコーディネーター・教室支援者、行政担当者等が識字・日本語学習の課題を共有するとともに意見交換できる場を増やしていく。